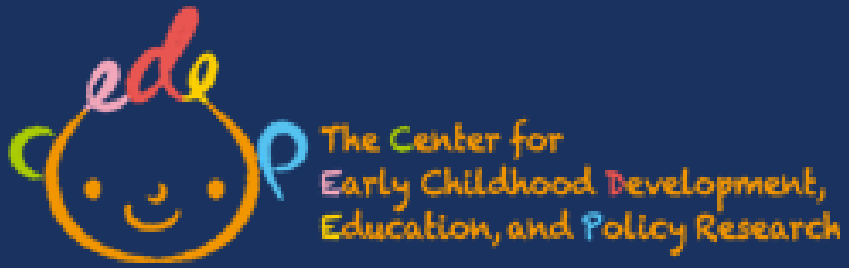
保育・幼児教育施設における保護者との情報共有と利用ツール

～ＩＣＴツールの利用状況～

○高橋翠†　淀川裕美†　野澤祥子†　関智弘† 村上祐介†　遠藤利彦†　秋田喜代美†

†東京大学　発達保育実践政策学センター（CEDEP）



HCS研究会（2017/03/15-16@東北大学）

発表概要

- **日本の保育・幼児教育施設では，保護者との各種情報共有においてICTツール（ウェブサイト，メール・ML，SNS・アプリ）がどの程度利用されているか？**

➢2015年度末に，発達保育実践政策学センターで実施した『全国保育・幼児教育施設大規模調査』の結果を発表する（全施設形態・回答者7,100余施設・30,700名）

➢保護者との情報共有において，いかなるICTツールが，どういった目的で利用されているのか？

➢施設の種別による特徴はあるのか？それはなぜか？

はじめに

- 保育園や幼稚園で，親御さんに
  - 日頃の保育において何を大切にしているか・何に力を入れているか
  - 今日何があったか，子どもの様子はどうだったか
  - これから園で何を行うのか
  - （緊急時に）園や子どもに何が起きて，親は何をすればよいか

これらの情報を適切に伝達することは，
安心・安全で質の高い保育を実施するために不可欠

保護者との情報共有の重要性はガイドラインでも指摘されている

- 保育所のガイドライン（保育所保育指針）
  - １．保育のねらい及び内容
    - （イ）内容「②家庭との連携を密にし，嘱託医等との連携を図りながら，子どもの疾病や事故防止に関する認識を深め，保健的で安全な保育環境の維持及び向上に努める。」
  - 保育所保育指針解説書
    - 「送迎時の保護者との会話や連絡帳，懇談会などを通し，積極的に家庭との情報交換を行いながら，24 時間を見据えた子どもの生活時間を考慮し，子どもの食事，睡眠，休息，遊びなどが無理なく営まれるよう…（中略）」
  - 幼稚園，認定こども園のガイドラインでも同様の記述

利用される情報共有ツール（手段）

- 保育実践辞典（公益財団法人幼少年教育研究所，2016）
  - 保護者との連携（p314-325）
    - 対面
    - 電話
    - 連絡帳
    - お知らせ（“園だより”“クラスだより”等）
    - 一斉メール
    - ホームページ
- また，保護者会は，保護者に園の運営に対する理解や，行事等を進めるための協力を得る場（海和, 2001）として，情報共有の主要な場の一つとなっていると考えられる。

保護者との情報共有のための業務が保育者の労働負担に結びついている

- 保育士を対象としたインタビュー（金城ほか, 2011）
  - 「保護者への連絡・手紙作成」が持ち帰り仕事となっており，負担に感じられている
- 保育士50名を対象にしたアンケート調査（吾田，2015）
  - 園内での時間外勤務や持ち帰り仕事として，連絡帳の記入や園だよりの作成が高頻度で行われている
- 北海道の保育所300園余を対象にした調査（川村, 2015）
  - 園長「保育日誌などの書類作成業務が更に煩雑となり，負担が増している」（62.2%が同意），「事務作業を行う時間がないため，持ち帰り仕事が増えている」（56.5%が同意）

保育者の業務負担軽減に向けたICTツールの導入と公的支援

- “保育所等におけるＩＣＴ化推進等事業”（平成27年度補正予算）
  - 平成２７年度補正予算の概要 １（財務省, 2015）
    一億総活躍社会の実現に向けて緊急に実施すべき対策等 （1）「希望出生率1.8」及び「介護離職ゼロ」に直結する緊急対策等 「希望出生率1.8」（第2の矢）関連
  - 「保育所等における保育士の業務負担軽減を図るため，負担となっている書類作成業務について，ICT化推進のための保育システム（指導計画やシフト表の作成等）の購入に必要な費用を支援する」事業
  - 安全管理用監視カメラの設置と合わせて計148.1億円の補正予算を計上している

※保護者との情報共有におけるICT化を主眼にした事業ではない

保護者との情報共有におけるICTツール実態把握の必要性

- 保護者との情報共有においても，保育者の労働負担軽減に向けてICTツールが活用できるはず
  - そのためには現時点でいかなる場面でどの程度ICTツールが導入・使用されているのか，**実態を定量的に把握する必要がある**
- また，特に災害発生時を含む非常時の情報共有ツールの利用状況については，日常的な業務負担の軽減とは別に，行政や民間システムの整備に向けて，実態の把握は急務であると考えられる

調査項目

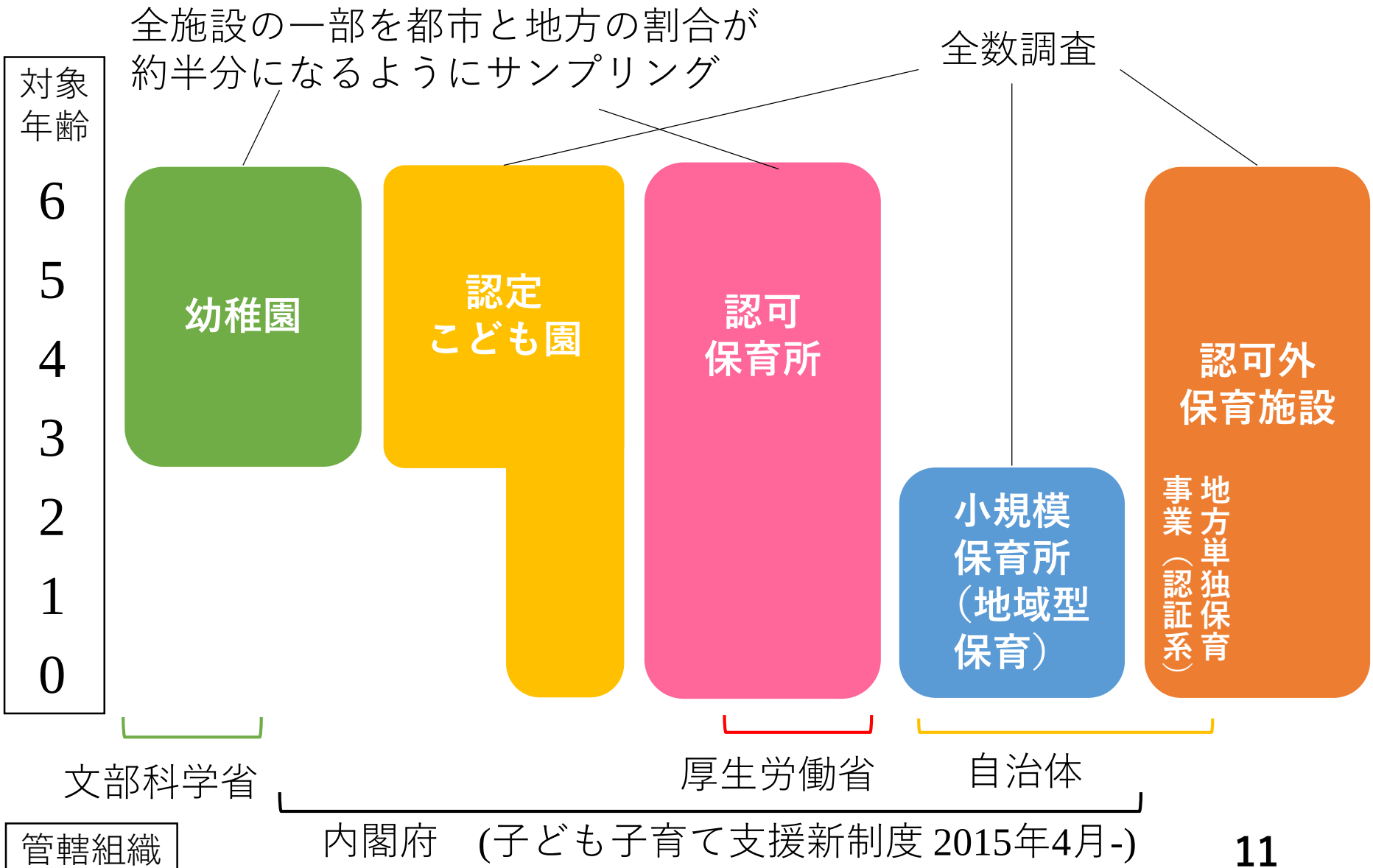
ツール／目的（4つ）	保育・経営理念の伝達	日々の実践や子どもの様子の伝達	通常の事務連絡	非常時の事務連絡
a連絡帳	○	○	○	
b園だよりやクラスだより	○	○	○	
c園内の掲示物	○	○	○	○
d園のウェブサイト	○	○	○	○
e SNS・アプリ	○	○	○	○
fメール・ML	○	○	○	○
g日々の送迎時の会話	○	○	○	
h保護者会	○	○	○	
iその他	○	○	○	
電話			○	○

- 保護者との情報共有における使用頻度を
  1「まったく使わない」～5「よく使う」の5段階で評定

『全国保育・幼児教育施設大規模調査』（発達保育実践政策学センター, 2015）

- 全国の**保育・幼児教育施設**を対象に実施した質問紙調査
- 対象：園長，主任，クラス担任（１・３・５歳児）
- 園単位で質問紙を送付・回収
  - 今回は主任票の結果を取り上げる
  - 主任票の回収率　6,801名（園）（33.3%）
    1. 認可保育所　2597（53%）
    2. 認定こども園　1159（45%）
    3. 幼稚園　1409（41%）
    4. 小規模保育所　538（33%）
    5. 認可外保育施設　1098（14%）

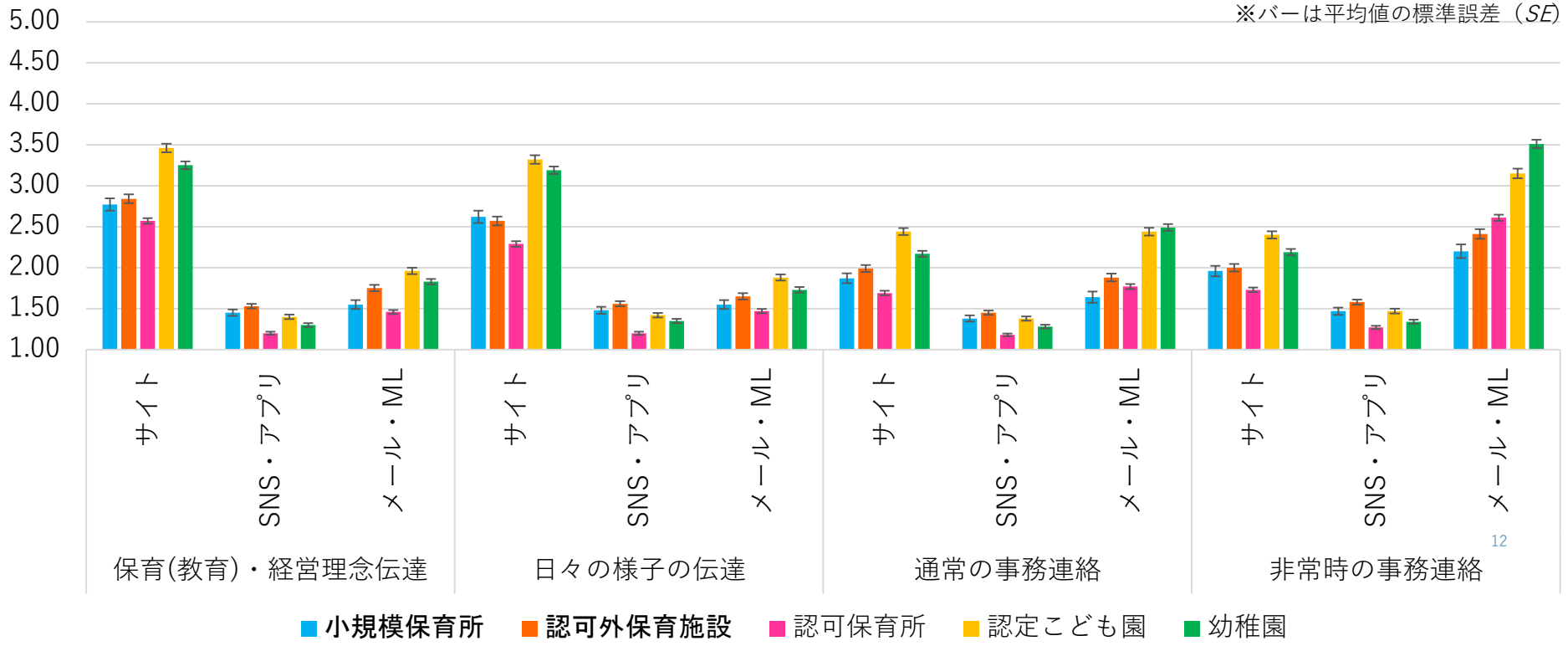
□ 日本の保育・幼児教育システムと調査対象



結果

1. **SNS・アプリ**は目的や施設形態に依らず利用されていない
2. **ウェブサイト**は「保育・経営理念」「日々の様子」の伝達のために，**メール・ML**は非常時の事務連絡のために，比較的利用されていることがわかる。幼稚園・認定こども園では他の施設に比べて利用している。
3. 非常時の連絡におけるメール・MLを除き，認可保育所では他の施設に比べてICTツールの導入が進んでいない

- 目的×施設形態別に平均値をプロット



ICTツールの導入・利用は二極化傾向①

表１　①保育(教育)・経営理念伝達頻度／園のウェブサイト

施設形態	数・割合	まったく使わない	あまり使わない	どちらともいえない	ときどき使う	よく使う	合計
小規模保育所	度数	185	43	70	71	126	495
	%	37.40%	8.70%	14.10%	14.30%	25.50%	100%
認可外保育施設	度数	370	81	101	176	282	1010
	%	36.60%	8.00%	10.00%	17.40%	27.90%	100%
認可保育所	度数	1066	224	246	359	537	2432
	%	43.80%	9.20%	10.10%	14.80%	22.10%	100%
認定こども園	度数	218	83	121	247	398	1067
	%	20.40%	7.80%	11.30%	23.10%	37.30%	100%
幼稚園	度数	309	132	144	348	402	1335
	%	23.10%	9.90%	10.80%	26.10%	30.10%	100%

ICTツールの導入・利用は二極化傾向②

表１２　④非常時の事務連絡／メール・ML

施設形態	数・割合	まったく使わない	あまり使わない	どちらともいえない	ときどき使う	よく使う	合計
小規模保育所	度数	293	32	37	44	99	505
	%	58.00%	6.30%	7.30%	8.70%	19.60%	100%
認可外保育施設	度数	515	65	68	133	229	1010
	%	51.00%	6.40%	6.70%	13.20%	22.70%	100%
認可保育所	度数	1201	119	121	331	692	2464
	%	48.70%	4.80%	4.90%	13.40%	28.10%	100%
認定こども園	度数	378	40	44	142	457	1061
	%	35.60%	3.80%	4.10%	13.40%	43.10%	100%
幼稚園	度数	405	32	26	185	695	1343
	%	30.20%	2.40%	1.90%	13.80%	51.70%	100%

まとめ

- 保育・幼児教育施設おける保護者との情報共有において，ICTツールは全体としてあまり活用されていない。
  - **SNS・アプリ**は全施設形態・情報共有の目的に関わらず，ほぼ利用されていなかった。
  - ただし，**ウェブサイト**については，幼稚園と認定こども園において，保育（教育）・経営理念や日々の様子の伝達時に比較的利用されていた；平均値が各3以上であり，3割以上の施設が「よく使う」と回答していた。
  - 同様に，幼稚園と認定こども園では，他の施設形態に比して非常時の連絡手段として**メール・ML**を活用していた；認定こども園では4割，幼稚園では5割以上が「よく使う」と回答していた。

考察①
認定こども園と幼稚園でICTツールの導入が進んでいる理由

- これらの施設では保育園に比べて通園エリアが広いことが挙げられる
  - 少し遠い園でも，保護者が気に入れば通わせる
    - 園児募集のためにウェブで教育理念・方針や日々の様子を紹介
    - 緊急時に気軽に立ち寄れないため，非常時にはメール・MLを活用
  - 園バスの利用と一斉登園・退園
    - 園バスの利用：保護者が普段園に立ち寄らない
    - 一斉登園・退園：同時刻に保護者が掲示板スペースに集中

    →日々の様子の伝達を効率的・効果的に行うべく，ウェブサイトを活用している

考察②
認可保育所でICTツールが利用されない理由

- 保育士の多忙
  - 子育て支援業務等のために新たなツールを導入するための時間や人手の余裕がない
- 施設の性質
  - 認可保育所は児童福祉施設である
  - 貧困やハンディキャップがあるために機器が入手できない・利用できない（＝ ICTツールに対するアクセシビリティが低い）保護者に配慮している可能性

→なぜ各種ICTツールを導入していないのか，保育者にインタビュー等を行い，実情を把握する必要があろう。

今後の展望

- 保護者との情報共有におけるICT技術の活用を促進／抑制する要因の検討が必要
  - 園児や職員規模，職員構成，予算・補助金等に着目した量的分析
  - 各ツールが効果的に導入・利用されている事例の質的分析
    （導入されているツールの機能やインターフェースの把握）

- ICT化が保育者の労働負担を実際に軽減しているか（既存手段の代替となっているか），その場合にはいかなる機能や活用方法が有効か
- 保育者がICTツールを狙い通り，直ちに活用できるようなインターフェースや研修等の考案